

平成21年度 第4回
多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会（第3期）会議録

日時：平成21年7月29日 午後7時～8時55分
場所：多摩市役所 第二庁舎会議室

会長 皆さん、こんばんは。審議会を始めさせていただきます。〇〇委員は少し遅れて参加するとのことですので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、第4回の多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

始めに出欠状況の確認を事務局のほうからお願ひします。

事務局 それでは、出席状況の確認をさせていただきます。

ただいまご出席いただいております委員の皆様は11名ということで、多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会条例第6条第2項の規定のとおり、過半数の委員の参加がございますので、本日の審議会は成立しております。

会長 では、よろしくお願ひします。

会議録の署名委員は順番からいきますと、今回は〇〇委員です。よろしくお願ひします。

次に前回第3回の会議結果の確認です。毎回前回の会議結果を確認しながら進めておりますので、確認したいと思います。事務局のほうからお願ひしたいと思います。

事務局 引き続き事務局からご説明いたします。

まず、これからご説明いたします会議結果につきましては、先日のご通知に同封させていただきました。

まず、1点目についてですが、会議録署名委員に〇〇委員を指名させていただきました。

次に、2点目ですが、6月29日、30日に行いました学校視察について、委員の皆様からご意見、感想をいただきました。

3点目としては、今後の審議会の進め方として4つの案からA案を選択し、主に東西愛宕小の議論をしながら、一定規模についての議論も進めていくということにしました。

4点目としては、東西愛宕小の課題を皆様からご発言いただきました。結果は本日の資料20にまとめております。

5点目については、第6回の審議会を8月24日、第7回の審議会を9月8日、いずれも午後7時からとすることに決定させていただきました。会議結果につきましては以上です。

会長 ありがとうございます。今の件で質問等ございますか。

(「なし」の声あり)

会長 それでは、今日審議を進めていくに当たっての配付資料の説明を事務局からお願ひしたいと思います。資料18、19、20、続けてお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

事務局 それでは、資料18の説明からさせていただきます。

資料18は、前回資料要求がありました、愛宕地区と隣接する多摩第二小学校の自治会

のエリア図になっております。この資料の見方ですが、青い線でくくっているところが多摩第二小学区内の自治会のうち、愛宕地区に隣接している5つの自治会です。ピンクの線はご存じのとおり、東愛宕小学校と西愛宕小学校の学区境を示しております。緑の線は、ちょっと見づらいのですが、多摩第二小学校の学区境を示しております。赤い線は、過去、昭和47年度に東愛宕小学校が開校されたときに通学区域の変更があった場所です。その後、昭和51年度に西愛宕小、東寺方小が開校しまして、現在の通学区域となりました。現在の通学区域というのは、この青い線と赤い線が重なっているところ

です。
この図で示したように、過去学区変更があったときは、和田第一自治会と東寺方自治会の一部をまたがる形で東愛宕小との学区境は設定されましたけれども、現在、多摩第二小と東西愛宕小の両方の学区にまたがっている自治会はございません。

このことは愛宕地区の自治会にも当てはまりまして、現在、愛宕地区の自治会の中で東愛宕小学校と西愛宕小学校の両方の学区にまたがっている自治会はございません。

資料18の説明は以上です。

会長 はい。次は資料19ですね。お願いします。

学校支援課長 では、資料19についての説明をいたします。こちらは新1年生の児童生徒数について、学校選択制等による増減を表したものでございます。最新のものは、裏面の平成21年度のところをご覧くださいと思います。こちらの平成21年度の部分は、平成21年4月の入学において、20年度に実施した学校選択制等による増減をあらわしたものでございます。東愛宕小学校と西愛宕小学校のところには網かけをしておりますが、例えば、東愛宕小学校は当初学区内で新1年生になる予定のお子さんの数は14人でした。そこから学校選択によってお二人増えて4人減って、そして、指定校変更によって4人増でお一人減ということで、結果的に21年4月の入学者数は15人ということになります。こうした見方を同じように西愛宕小学校でもしていただきますと、当初の入学予定者数は24人、その中から学校選択でお一人減、指定校変更で6人減という経過で、4月の入学者数は15人ということでございます。

それから、その次のページの平成20年度学校選択制申請状況でございますけれども、こちらは本来の学区の学校からどちらの学校に申請を出されて出て行かれたかということを示しております。例えば、東愛宕小学校ですと、多摩第二小学校にお一人、多摩第三小学校に3人の希望があり通学しています。そして、左側の希望した学校の東愛宕小学校の欄をご覧くださいますと、多摩第一小学校からお一人、多摩第二小学校からお一人、計お二人の方が東愛宕小学校に他学区から通学しているというような表になっております。

この2つの表についてのご説明は以上ですが、こちらの数は新1年生の数字ですので、全学年、全体ということで申しますと、東愛宕小学校におきましては私立学校に行かれた方が4人、他学区へ出て行かれた方が24人、そして他学区から東愛宕小学校にいらした方が42人ということになっております。

また、西愛宕小学校では、私立学校に行かれた方が3人、他学区の学校に行かれた方が

34人、他学区からいらした方が5人という形になっております。今の数字は口頭で申し上げました。

以上でございます。

会長 ありがとうございます。

では、資料20をお願いしたいと思います。

教育部参事 それでは、資料20の課題等の整理表ですけれども、これにつきましては、前回の第3(一定規模担当)回の審議会の中でいろいろと皆様方から現地視察をした感想やご意見、課題の抽出をいただきましたので、このようにまとめて整理をさせていただきました。こちらの整理につきましては、表現は短くまとめておりますので、表現が不十分な部分がありましたらご了承いただきたいと思います。

まず、左のほうにA案という言葉がございますけれども、これにつきましては第3回の審議会のときに今後の進め方ということで、AからD案をご議論いただきまして、このA案という形で進めていくことになりましたので、このA案に沿って皆様方から出されたご意見を整理したものでございます。

まず、真ん中の部分、「東西愛宕小『統合の検討』」という部分に相当すると思われるようなものを右側の表に整理させていただきましたが、まず、「東西愛宕小の特徴」ということで幾つかご意見が出されました。「分校のような子どもの少なさ」だとか「10人にも満たない教室がある」とか、あるいは「教室の真中で子どもたちがまとまって授業を受けられる」というようないろいろな特徴について意見が出されましたので、ここに書いてございます。

それから、統合の検討ということに相当する課題的なものを次に挙げさせていただきました。(1)にありますように、「単純統合であると生徒数が増えてクラスは増えない」とか、あるいは「2つを1つの学校にしたときこの人数で2クラス作れたらいい」だとか、統合に伴う幾つかの課題をこのように抽出させていただいております。また、それらと関係が出てくると思いますが、「魅力ある学校づくり」という視点からのご意見もございました。「運動会が華やかにできることクラス替えがあること」だとか、あるいは「統合して利点をアピールする」とか、幾つかご意見をいただきましたので書いてございます。

また、東西愛宕小ではなく、今度は多摩第二小の通学区域の変更という関係では、下のほうの表にございますけれども、「地域コミュニティ」の観点から、「二小は地元の人が多い」だとか、「二小は歴史が古く三代に渡り通学していることもあるので人数だけで簡単に切るとは難しい」だとか、その他いろいろご意見が寄せられましたので、この部分にまとめてございます。

また、下のほうに「選択制」の関係でも、「選択制により地域で子どもを見ることが難しくなっている」だとか、「東を使うとすると山の中を通っていくより同じ距離であれば大通りで人目の多い三小に行かせる意見が多い」だとか、そういう選択制にかかわるご意見もいただきましたので、ここに載せさせていただきました。

なお、表の左側に今後の進め方の中でかかわりがあるようなものを少し抽出しておりま

す。「統合のメリット・デメリットを話し合う」とか、あるいは「段階をふまえた次の話し合いに行くべき」だとか、あるいは「子どもの数の減少はとめられないので、どう子どもたちにとって魅力ある学校づくりができるかだ」とか。それから、「条件として考えねばならないところは、一緒にして2クラス取れるかどうか」というご意見もいただいておりますので、このような形で載せさせていただいております。

説明は以上です。

会長 ありがとうございます。資料18、19、20の説明に対して、質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、ここまでの確認をさせていただこうと思います。

ここで整理して出していた資料20をもとにして、まだこれが入ってなかったとか、追加をするとか、もう少しこの辺はこう考えたらいいんじゃないかとか、プラスする面とか、課題のプラスの面とかマイナス面とか、課題についてまた課題が出てくるとかいったことを自由に、意見を十分出し切っていただきたいと思います。意見を全部出し切る時間にしていただきたいと思います。それをもとにして、整理する時間も少しとれたら、共通に、基本的に押さえていかなければいけないことを確認して、その点について話をしたいと思います。次回はそれをまた整理していただいたものをもとに解決策をどう考えたらいいか、統合についてどう考えたらいいかということ具体的に進めたいと思います。

それでは、最初、私のほうでこの項目ごとに進めさせていただきます。途中で他のところに入っても結構ですが、話しやすくするためにそのように進めさせていただこうと思います。

では、始めに「東西愛宕小の特徴」の件からです。これは1から11までありますけれども、その特徴として「分校のような子どもの少なさ」、「10人にも満たない教室がある」、それから「教室の真ん中で子どもたちがまとまって授業を受けられる」、これはどっちかというといいいのではないですかね。それから、「切磋琢磨する場面が教育活動で出せるか」、「人数が少ないことで制約がでる」、「あの状態が365日35週にわたり続く」、課題がそういう形で出ております。もう1回。3の「教室の真ん中で子どもたちがまとまって授業を受けられる」、これは良いところの面に出ているのでしょうかね。それから、「環境が良い」とか、「自然がいっぱい」とか、「少人数で、先生に目をかけてもらえる」、「伸び伸びしている」、「地域と密着している」。私が後半に言ったのは明らかにプラスの面かと思いますが、そういう面が自由に出ておりますけれども、どうぞまだ足りない点とか、修正するとか、追加とか、課題等出していただければと思います。

〇〇委員 簡潔にまとめられたのだと思うのですがけれども、東西愛宕小の特徴という形で、一緒にされてしまっていることが少し疑問だと思うということがオブザーバーのほうから出ていくというのと、揚げ足取りみたいになってしまうかもしれないのですが、「分校のような」とか、そういう言葉もちよっと気になると。あとは西愛宕小に関して、東愛宕小のほうはわからないのですが、2番の「10人にも満たない教室がある」というのは、

西愛宕小についてはないです。あと、6番の「あの状態が365日35週にわたり続く」というのも、西愛宕小の保護者も子どももそれほど問題視をしていることではないので、とても問題のように思われてしまうのがちょっと…、ということですかね。

会長 東西愛宕小を一緒にして、両方考えているということですね。

〇〇委員 はい。この状態というのは、とてもひどいような状態というふうにとれてしまう。でも子どもたちも保護者も特に不満に思っている、問題視しているわけではなく、選択制があるということで大きい学校に行かせたければ大きな学校に行かせているでしょうし、少人数の学校だということがわかって保護者たちは入れているので、取り立ててあの状態が、というようなとらえ方をするほど保護者のほうとしては思っていない。子どもも、例えばもっと人数が多ければ良いとか、そういうような不満があるわけではないということは言いたいことです。

会長 そうすると、番号で言っていたくとどれが……。

〇〇委員 1番と6番。

会長 1番と6番はあまり該当しないということですね。

〇〇委員 該当しないというか、表現が……。

会長 該当しないというか、この件については、あまりこういう形は違うということですね。

〇〇委員 そうですね。

〇〇委員 よろしいですか、恐れ入ります。実はこれは、この整理表の中のこの文言をどう考えるかという問題ですね。つまり、これは記録として残るのであるならば、これが問題だということがわかり得ますが、これはあくまで整理表です。実は文脈が外れて出ている言葉ですから、きっとこれだけ読んでも意味がわからない。実はこの6番のあの状態はというのは、実は私の言葉です。前回の話の中で、とても少人数で先生方の目が行き届いていて、子どもが少なくてという話ばかりが続いていたので、ちょっとお待ちください、あの状態がずっとこれから先生も変わらず、担任も変わらず、6年間続くというようなこと、続いていくという確率が高いのが少人数学校なんです、そういうことを想像してみてくださいという話の、その一部分の言葉を切り取ってここに並んでいるだけなんです。

ですから、ここに出ている日本語の言葉だけで、この言葉がどうのこうのということは本質的ではない。むしろ、そこで私たちが議論しようとしたことがあまりにも、実は私たちが視察に行ったのですけれども、あの日見た、あのときのあの場面のことを、もちろん、それをベースにはするのですけれども、実は、あのときは良い雰囲気だったよねという話になりかけたので、ちょっと待ってください、あれがずっと続くということは

実はどういうことを意味するかということも一緒に考えましょうよという話だったわけ
です。

ですから、ここにこうやって並んでいること自体が、確かにそのこと自体が課題である
とか、実は分校がメリット・デメリットであるという問題ではないとは思いますが。むしろ
文脈から外れている、切り取られている言葉ですので、そういう誤解を生むことはあり
得るなと思います。

会長 どうぞ、〇〇委員。

〇〇委員 そこのところで、先ほどの2番は10人にも満たない教室があるという表現ですが、ク
ラスとしては10人に満たないクラスはないんです、東西愛宕小ともに。あるというのは、
少人数指導のところを見にいらしたのかなと。2つに分けたら、5人と20人という授業
もしていましたので。だから、今、文脈とおっしゃったけど、それだと何かいかにもすご
く小さくなっちゃって、もう10人切っているよみたいな表現になってしまうので、これ
はやはり記録とするときにちょっと申し上げたい。どこのクラスの人数も私は知っていま
すので、10人を切っているところはどこもないので、もしご覧になった時間帯で、すご
く小さいとしたら少人数で授業をしているときがありますので2つに分けているので、そ
れこそ5人と20人なんて分けている場合もありますので、それを見られたのだとすれば、
これだと1クラス10人にもなんないのというのと少し違いますので、この表現はまずい
のではないかと思いますね。

会長 そういう意味では、これは見方とかいろいろあるかと思いますが、中身や内容を理解す
る、そういう時間でもありますから、修正したり、追加したり、これはこういうことで
よと、そういうことを言わないと一部分になっています。それはありますね。

〇〇委員 分けたときには10人を切る学級があって当たり前ですので。

会長 はい、そうですね。授業するとき、たまたま5人に分けたりすることとかいろいろある
ので、その場面をたまたま見たら5人だったということもありますから、それは全部とい
う意味じゃなく、いろいろな場面を想定して、説明していただければいいかと思いま
すね。
ほかにありませんか。どうぞ。

〇〇委員 5番ですが、人数が少ないことで制約があるとあるのですが、確かに人数が少ないこ
とで大人数でやるものではないかもしれないのですが、人数が少ないことでメリットと
いう部分では、学芸会等の行事のときに、必ず全員が配役につけるし、一人でも抜けると
成り立たないという緊張感とかもあるので、そういう意味では、人数が少ないことが決して
悪いことではないと思います。

会長 はい、どうぞ。

〇〇委員 今、皆さん、多分、整理表に出ている内容に関して話が出ているかと思うのですが、一番のポイントは何かということを見ると、やはり統合の検討が第一なわけですから、メリット・デメリットがあって当然なので、今ここで話すのは、前回出た話をどうのこうのというのではなくて、これからの議題をやはり検討していくべきじゃないかと思うのですが、いかがでしょうか。

会長 今の件どうでしょうか。今、そういうことをどんどん進めていくのですけれども、今、これに不足部分の課題とか、説明不足でわからない部分とか、もっと追加しておきたいということを出しておかないと、後から進み出してまたここへ戻るのは大変です。今日は出し切ってしまったほうがいいと思ひましてね。今のように意味がわからない部分とか、理解できるものを十分出し切って確認してから次に進みたいと思っているわけです。ですから、出し切れれば。それほど長時間は必要ないと思ひますから、どうぞ。

〇〇委員 1つだけ追加をしたいのですけれども、前回のときに学校の特徴のようなことを聞かれたときに、突然で考えが浮かばなかったの。その後、いろいろ話をしたときに出したことは、やはり人数が少ない分、他学年との仲の良さというのもすごくありまして、例えば一、二年生は必ず2学年で遠足に行くとか、普通だったら1学年でやることを2学年で一緒にやるという感じで、必ず順番に上がっていくので、小さい子の面倒を見たりとか、そういうこともできたり、今、一人っ子もすごく多いのですけれども、自分が2年生になったときに1年生の子が入ってきて、下の1年生の面倒を見るということもできたりとか、そういう意味では、他学年とのかかわりがすごく多いので、お兄ちゃんにもお姉ちゃんにもなれたりとか、妹や弟にもなれたりとかということはあるかと思ひます。それが1つ追加したかったことです。

会長 追加したかったことですね、ありがとうございます。では、次のほうに進めさせていただきます。

統合の検討問題です。「単純統合であると生徒数は増えてクラスは増えない」、「2つを1つの学校にしたときこの人数で2クラスつくれたらいい」、これはプラスの問題と考えられる。そうならいいかなという感じですね。「単なる統合では適正規模にならない」、「東西は単純に統合するだけでは多クラスを確保できるか疑問」。同じ関係からいきますと、8番の「東西を足しても30人くらいであり、1クラスのまま6年間で過ごすのであればメリットはあるのか」、それから、9番の「特別支援扱いの子と普通の子がやっつけられるのか」、10番、「一定規模にならないければ、統廃合する意味がわからない」、11番が、「人数が増えると一人の子どもに届く目が限られるので、子どもがそれに対応できるか」、12番、「統合しても10年後また統合の話が出るのではないか」、13番、「数年先の問題の前に子どもたちにとって今が問題である」。ということはクラス数の増加や人数が増えることに関係することで、その他のことが5番、6番、7番で、5番は安全面ですね。「登下校の道の安全面は地域や周りの大人が考えるべき」、6番、「遊歩道ではなくバス通り・大通りとなると、ランドセルを背負って結構な距離を歩くことになる」、7番の「東西愛宕小や遊歩道は寂しいと感じた」とい

う。これらは人数、クラスの規模のことと安全面の両面が出ていますけれども、この件についてどうでしょうか。何か意味がわからないとか、追加しておきたいとか修正とか、もっとこういうこともあるんだというようなことはありませんか。

〇〇委員 1つ質問なのですが、先月の現地視察のときに、西愛宕小から東愛宕小へ歩いた道は、通学路として考えていると思ってよろしいのでしょうか、それともこの審議会で通学路もこれから決めるということで。

会長 そうですね。

〇〇委員 そうですか。

会長 まだ決めたわけではない。今、そのことをどうしようかということで検討をする方向ですからね。今、通学路になっていますか、なってないですか。この辺はいいですか、出し切っていますか。意味がわからないところも。では、全体を見ましょうか。魅力ある学校づくりという点からいきます。「運動会が華やかにできること、クラス替えがあること」。これから学校をつくるというときのことを考えたときのことでですね。それを想定して、運動会が華やかにできることクラス替えがあること、そういう学校が望ましいということですか。

それから、2番目、「統合して利点をアピールする（二小の保護者に対し）」と書いてあります。3番目に「中学に希望・特色がなければ人は来ないし、小学校は違うところに行く」、これはどなたが出したのですか。これはどういう意味ですか。意味はわかりますか。

〇〇委員 今日、欠席されている西愛宕小地域の〇〇委員の発言だったと思うんです。

会長 そうですか。

4番目、「荒川ではシニアの人が児童を送り届けている」、これは登下校のことですか。5番目、「メリットが多くないと統合自体は難しい」、「統合ありとした上で子どもたちに手厚い対応を」、「40人いかなくても2クラスになるような手厚さを」、「特例がなければどうにもならない」。40人にいかなくても2クラスになれる手厚さをというのは特例がないから、この辺は難しいということですかね。「人的配慮は教育委員会に最大限配慮してもらおう」、10番、「10人位ほど子どもたちを呼び込むセールスポイントがつくれれば」、11番、「学校ならではの発想で子どもや保護者に受け入れられる学校づくりを」、こういう学校づくりをしたいんだということが出されております。こういう点についてどうですか。子どもたちに手厚い対応というのを出された方はいらっしゃいますね。2クラスになるような手厚さを。これはどんな子どもということを考えているのですか、出された方。統合ありとした上で子どもたちに手厚い対応を。どなたか、この辺はよろしいですか。どうぞ、〇〇委員。

〇〇委員 この手厚い対応というのは、例えば副担任を置くとか人的なことを言っているのだと思います。

会長 なるほど。子どもは……。

〇〇委員 統合しても2クラスにならないという話の続きだと思います。

会長 人的対応で子どもたちに対してということですかね。今、魅力ある学校づくりの中で人的配置の問題ということが出ているので、事務局のほうで少し説明していただきます。

教育部参事 第1回は失礼いたしました。私の所掌事務は教職員やその他の人的配置に対する人事と、
(教育指導課長事務取扱)各学校での指導内容の指導助言というのが主な業務でございます。

人的支援等についてご議論いただく前に、実情についてご理解いただいたほうが、論議がスムーズにいくかと思しますので、少しお時間いただきたいと思えます。

まず現在、各学校でご勤務いただいている校長先生、副校長先生、先生方、養護教諭、事務職員の皆さんは県費負担教職員と言いまして、東京都に人事権がございます。平たくいいますと、東京都と国がお給料を払っているということです。したがいまして、多摩市としてそのお給料を払っていることはございません。

また、1学級の人数は40人という定めがございます。これも県費負担教職員をいただいているという関係から、各市が独自にそれを変更することはできません。したがって、この1学級40人という定数を変えるということであれば、それは各自治体の持ち出しになります。例えば、近隣ではございませんけれども、杉並区が自前で教員を養成し、採用しております。相当の財源を使っていると思われまます。まず、これが1点です。とはいえ本市は非常に手厚い人的支援を行っておりまして、前回は出ておりましたでしょうか、ピアティーチャー制度、図書館司書制度がございます。これはどういう考えで配当しているかといいますと、まず、一番は特別支援ということで配当しております。各学校に特別支援室がございますので、ここに常駐をしていただくという考えから、これは規模にかかわらず一定額の配置をしています。したがいまして、逆にいいますと規模の小さいほうが手厚い配置になるということが言えます。

また、学習支援といたしまして、これは主に学級数、児童数に比例するような形で配当しております。さらに加えますと、水泳指導のピアティーチャーも配置しております。これは水泳指導を行う折に、例えば一、二年生が一緒に授業をしても指導者は2人しかいません。これでは安全が確保できませんので、2学年を合わせて3学級に満たないところに配置をしています。したがいまして、これも規模の小さい学校のための配置となっています。そういたしますと、単純に考えると、東愛宕小、西愛宕小については、児童数のわりには手厚いということが言えます。

この配分は今申し上げましたように、私どもよく検討した基準を設け、当然、教育委員会等のご意見をいただきながら配当しているところがございますので、この割合を何か変えるということを私ども事務局の一存でできるものではございません。そこだけはお話ししておきたいと思えます。

図書館司書につきましてもほぼ同様でございますが、司書の性格から大規模校が非常に多く配当するという形はとっていません。大変緩やかな傾斜をつけて配当しておりますので、図書館司書につきましても、今のところ小規模校のほうが一人当たりの配置ということでは手厚いということになるかと思えます。

会長　　今の事務局からの説明で、何か質問されることはありますか。

〇〇委員　例えば、統合したと仮定して、40人以上にならなくて2クラスの特例をという話になったとしたら、多摩市では決められないということですか。

教育部参事　可能性はもちろんあります。多摩市独自で、例えば退職をされた正規の教員の方を採用(教育指導課長事務取扱)するということはもちろんできます。教員ですから教員免許状がなくてはできませんので。ただし、それはかなりの額の市の一般財源を活用することになりますので、当然、事務局ではなく教育委員会でご意思を決定いただき、それが多摩市議会で承認をいただかないことには実現いたしません。当然、他の地区から見ますと、うちの学校もそうしてほしいというお気持ちもきつとおありだと思います。そのところ、最終的には議会で予算を伴うものですので、ご判断いただくということでございます。

会長　　よろしいでしょうか。今お話を伺った上では、審議会は要望できることはどんどんお願いして、できること、できないことはあるでしょうけれども、良い方向を考えたらいいと思います。地域コミュニティの多摩第二小の件につきましては、今日は読んでおいていただいて、今の上のほうのを中心にして。これ以上中身は出てきそうにないのですけれども。結局、こういう課題を話し合われてきているのは、何を一番もとにして考えられているのですか、皆さん。人数が少なくてもメリットがあると、2学年でも一緒に参加してできる交流の仕方があるということは子どものためですよね。子どもを何とかよくしたいということがもとになっているのではないですか、今までずっと話し合ってきて。

これは、ただ箱はどうだとか、人数がどうだとかいっても、最終的には子どもをどうするかということが全ての問題になっていくのではないかと思うのですが、その点はいかがですか。そういう点で話し合いされた課題の整理をするとき、子どものことを考えなくてはいけないのですから、どんなことを皆さんが望んでいるのか、あるいはどんな学校であつたらいいのかということを、皆さんイメージが違うかと思いますので、その辺を確認するというか、話し合いをしておく、この課題を詰めていけるのではないかと思いますので、そういう点の話し合いをしていただきたいと思うのですね。

私なりの審議の進め方でメモをつくったのがあります。参考にしていただいて話を進めていきたいと思えます。

課題が出されていますけれども、行き着くところはどんな子どもに育てたいかということになる。皆さんが納得する方向にいけば、それが、この統合の問題がどうなるのかといったところに行き着くのではないかと思いますので、この点の話し合いをしていただければ、次回これを整理して、今日出てきたこの課題とつなげていただこうかと思っています。そして次回の話し合いになるかと思えますけれども、まず一番大事なものは皆さ

んお互いに我が子、集団の子どもとか、将来を考えていくときに、どんな子どもに育てほしいという願いがあるのか。この辺をはっきりしないと課題が整理して進んでいかなくなると思いますので、お願いしたいと思います。少し考えていただいて。どんな子どもに育てたいか、どんな学校にしていきたいかというようなところを自由に話していただければと思っております。四、五分考えていただいて、それから自由に話をさせていただこうと思っております。

よろしいでしょうか。「多摩市の教育」という冊子があるのですが、この目次のところに「多摩市の教育目標」というのがあるんです。これは「多摩市の未来・日本の未来を担う人間を育成するとともに、市民一人ひとりが生涯にわたって自らを啓発し、自己実現を図ることのできる社会を目指す」という文があるのですが、子どもたちはどんどん成長していくし、いずれは親から離れていきます。自分で成長していったときに、立派な子どもに育てほしいという願いのもとに、最終的に大人になったときに自分で人間として生涯にわたって自分の幸せの実現を自分の力で図っていけるようにする。そういうことができたときに社会が安定するということの目標が書かれております。こういう視点が1つあるのではないかと思います。学校という集団、公的な場で子どもをみんな育てていくときに親の願いとして、地域の願いとして、みんなの願いとしてどんな子どもに育てほしいのかという理想像が皆さんあって、そのためにこの課題を何とか解決してほしいんだということがたくさん出てきているのではないかと思います。そこで、こんな子どもに育てほしいなということを思いつくままで結構です。自由に言うただくとありがたいと思います。順番にいきますか。〇〇委員さんからお願いしましょうか。なかったら結構です。どうぞ。

〇〇委員 現役のお母さん方からのほうがよいのではないのでしょうか

会長 それでは、〇〇委員さんから言ってください。

〇〇委員 当たり前だとは思いますが、人の痛みがわかったりとか、自分がされて嫌なこととはしないとか、こんなことをしたら人は傷つくんだとか、そういうことがきちんとわかって、思いやりが持てる子に育てほしいなというふうにはいつも思っているのと、あとは親だけじゃなくて周りの言うことに左右されないで、自分の意思をしっかり持ち、人に流されないというか、自分の意思をしっかり持てる子に育てほしいなと思って接してはいます。

会長 最近、いろいろな事件がありますよね。ああいうのを見て本当にそういうことを感じられますか。

〇〇委員 そうですね。なるべくたくさん会話をして、子どもの気持ちの近くにしようとは思ってはいるのですけれども。

会長 ありがとうございます。どうぞ遠慮しないで自由に。〇〇委員さん、どうぞ。

〇〇委員 一言で言うのは難しいです。

会長 いいですよ、具体的なことでも何でも。

〇〇委員 月並みなんですけど、思いやりがあって伸び伸びと育ててほしいなというのがありますし、あと自分の行動に責任を持てる子になってほしいとか、競争心を育ててほしいとか、健全に育ててほしいなというのがあります。

会長 そのためにはどういうことが大事なんですかね。

〇〇委員 それを聞かれちゃうと……。やはり学校と保護者と地域の三角形がうまくいっていることが一番大事なのではないかなと。

会長 ありがとうございます。〇〇委員、どうぞ。

〇〇委員 4人もいるのですけれども、一番下が中3になってしまって、小さい頃には自分の思いを自分の言葉で表現する子に育てたいとずっと思っていました。とにかく言葉で私に伝える、他の方に伝える。少し大きくなったら、今度はお友達の思いが酌み取れて、思いやりなんですけれども、他の人の痛みがわかるような子にしたいなと思って、自分の主張ばかりじゃなく、他の子はどう思うのとよく聞いたのですけれども。最後、今は中学生になって、自分が努力し続けられる子かなと。もう相手は周りではなく自分自身のはずですから、自分自身が挑戦できる子に育てたいなと思って。どうしたらいいかわからないのですけれども、そういうような目線でもって接してきました。2人は成年しましたけれども、未成年が2人いまして、親の責任がある子があと2人いますので、挑戦中ではあるのですけれども、そんなところですよ。

会長 〇〇委員、小学生からの流れをかなり知っていらっしゃるから、子どもを育てていくのは上手ですね。

〇〇委員 そのような話でよかったのですか。

会長 いいんです。そのために何が大切かということも、いろいろなことを考えているわけですね。ありがとうございました。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 この設問だけで考えると、自分の子どもは社会の中で良好な関係を維持しながら、自分の能力を自由に発揮できるような人になってほしいとは思いますが、ただ、この質問は何かなのかという点ですが、学校統合の中で考えると、こういう課題を学校教育で担う部分と家庭教育で担うのか、社会の中での担うことになるのかというところを考えると、まず、学校教育で何を担うんだということがはっきりしないで、こんな子どもになってほしいとい

う議論は少しぼやけてしまうのではないかなと。学校教育は何を担うんだということがまずあれば、話し合うということもあっていいのではないかと。

会長 今、ここで親御さんが自分の子どもをどんな子に育ててほしいかということを書いて書いたつもりなんです。そうすると学校ではそういう気持ちを受けて、こういう教育をしようという教育目標等が決まってくるわけですがけれども、保護者や住民や国民の意思を受けたこういう子どもにしてほしい、先生、お願いしますということを受けて、学校で教育目標をつくっていただく。まず、親の気持ちを伺っているというふうにお話ししているのですが、また後で教えてください。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 　どんな子どもを育てたいかというので、私自身はこういう子に育ててほしいということで、先ほどもおっしゃっていましたがけれども、人の心の痛みがわかる人間に育ててほしいということと、人の意見に振り回されず、嫌なことはノーと言える人間になってほしい、いつでも夢を持って、その夢に向かって努力し続けてほしいということはずっと子どもに言い続けています。

会長 　そのためにどういうことをしたらいいですか、課題とか、こういうことをお願いしたらどうか。

〇〇委員 　人の心の痛みがわかるというのは、多くの人にふれ合うことが大事だなと感じています。家の中だけでいい子、いい子で育てていくとわからない部分も多いと思うんです。それが一人でほうり出されたときに自分はこうしたいのに相手がこう思っていない、そのときにどうするのということをそういうところで考えることができるような場をつくってあげたいなど。

会長 　ありがとうございます。〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 　すごく良い意見が出ていて、私としては小学校時代で、1年生は友達をたくさんつくって、上級生の人たちの良いところをすごく吸収して学べるのが1年生、2年生だと思うんです。6年生になるとときには、1年生の面倒がよく見れて、もう模範になれるような、お手本になれるような子に6年生になったら育ててほしいというのが小学生時代で、やはり自分で善悪の判断がつけられるような、先ほどおっしゃっていたような人の気持ちがわかって、例でいえばいじめの問題とかも小学校のときからあるので、そういうのもみんなと一緒に無視するとかではなくて善悪ですよね。悪いことはノーと言って、自分はいじめられている子を助けられるようなやさしい、思いやりのある子に育ててほしい。

あとは私は40人の生徒を1クラスの子、3人の子どもたちもそうなんですけれども、いろいろな人と交流があればこそ、すごく良いこともたくさんあって、その他に我慢もしなければいけないけれども、今はコミュニケーションの力が少なくなっているのだけれども、多くの人とふれ合うことでコミュニケーションの力がつくのではないかと思います。

会長 ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私はいつも子どもと接するときにはわが子というのを外れた活動しか全然していないので申しわけないのですが、どんな子どもというのは地区委員会から見たどんな子どもという形でいいますと、社会性のある子どもを育てたいなと思っています。私たちは活動の中で学校という小さな社会と世の中の社会がある。それから、学校の中でも縦とか横とかありますけれども、社会人として育ていける子どもたちをわきからサポートできたらいいかなと思っています。

ですから、今度、キャンプに子どもを連れていくのですが、今のお子さんは大体自家用車でどこか目的地に行きますので、うちは路線バスに乗せて、切符を買わせて、歩かせてキャンプ地までということをやっと続けているのですけれども、それは今の教育の中でできないことを社会でもし、何か行事を組んだりするときにはそういうことができるのかなと思って組んでいます。どんな子どもにということと違うかもしれませんが。行事を考えるとときにもそういうことを意図的に考えてやっています。例えば、ものすごく単純なことなんですけれども、七夕飾りをつくったりするんです。ずっと長く続けていますと、今のお子さんははさみが使えませんねということがわかって、じゃあ、私たちは七夕飾りの中にはさみをたくさん使うものをつくらせようとか、目的が違った答えになってしまうかもしれないのですけれども、そういうことも含めて行事を考えながら子どもたちと接していますけれども。

会長 どうもありがとうございます。〇〇委員、これはどんな子どもというよりも学校の立場から。先ほど〇〇委員が言ったけれども、学校のほうからの視点、どんな学校にしていきたいか、どちらかというと学校のほうが中心ですから、この2つの点のお考えを言っていたらと思います。

〇〇委員 まず、どんな子どもに育てていきたいかということですが、よく子どもたちに話をするのですが、将来、地域、日本を背負っていく、支えていくという子どもに育てるというのが私たちの使命でありまして、少し古い言い回しですが、世のため、人のためになる、なれる人になる。何のために勉強するんだ、自分のためでもあるけれども、世のため、人のためになれる人になってこそ豊かな人生が送れるんだ、そんなことを子どもに話をします。そういうことからいうと、学校では知・徳・体をバランスよく育んでいく。子ども一人一人を見たときには、かわいい子たちでもありますから、夢をずっと持ち続けて、幸せな人生を送ってもらいたいというのが根本にあります。

どんな学校にしていきたいかということですが、魅力ある新しい学校づくりとありますが、何をするかというのは別として、子どもたちが学校で生き生きはつらつとして意欲的に取り組んでいる、そういう姿があればいいと思います。学校の教育というのは、最終的に行き着くところは人だと思っています。ですから、いかに良い人材を配置する、また良い人材、教師を育てていくか、そこに教育の質は問われてくるのではないかと思います。良い学校というのは良い先生がたくさんいる学校ではないでしょうか。それは

学校の中でも良い先生を配置していただく、学校の中でも教師を育てていくということが大事なんだろうなと思っています。

会長 ありがとうございました。〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 お母さん方が思われることは、どの学校のお母さん方も一緒じゃないかなと思います。ただ、学校側からすると、〇〇委員も言っていましたが、知・徳・体ということの1つは学力、やさしさとか思いやりという意味の心、あとは健康、その3つは外せないと思うのですが、特に最近に加えて社会性というのも大事なかなと思います。ですから、どんな子どもたちを育てたいかということの中で、やはり〇〇委員がおっしゃっていましたが、学校教育として考えていかないと、家庭教育でどんなお子さんをといたら、皆さんやさしい子になってほしいとか頑張ってもらいたいとかと思うじゃないですか。それは議論が進んでいなくなってしまうので、むしろ学校としてどういうところを大事にしてほしいとか、こういうことについてはどういうふうに対応していくのだろうかとしていくのがいいのかなと聞いていて思いました。学力でいえば、どうやって子どもたちの指導を手厚くしていくのかとか、それから、さっき話がありましたけれども、多くの人に出会うことで社会性が培われるのであれば、何とか2学級ぐらいの子どもたちの人数になるような手立てなり魅力ある学校づくりをして、他の地区から入ってこれるようにしてあげるとかというようなことが必要なかなと思います。あと話がかわってしまうかもしれないのですが、安全は学校では大事です。ですから、例えば子どもたちが遠い距離を登下校するようになるのであれば、地域の方にどうやって見守りサポートをしてもらいたいな呼びかけをどうやっていこうかということが具体化していくといいのかなと思います。

それから、さっきの両校の特徴というのを見ると、両方とも環境が良いとか地域に密着しているというところがあるかなと思うので、その辺も生かせる学校になったらいいのかなと思います。

会長 ありがとうございます。〇〇委員。

〇〇委員 私は教員でもあり母親でもあるので、どんな子どもに育てたいかと考えたときにこれとこれとこれと考えたことが、会長が矢印で書いているこの文章に全て集約されていると思いました。「自ら考え・・・」というのを自ら考えるようにするにはどうすればいいかと考えると、やはりいつも親が手を出すと先生が手助けをするというよりも、ある程度の距離を置いて、子ども一人の個を認めて大切にすること、それから、「たくましく育てる」。これは良い意味での競争が学校にあるといいかなと思います。あと「より善く生きる力」というのは、たくましさとも関連しますが、他人を思いやるやさしさというのが学校でも家でもつけていけたらと思います。それから、やはり社会性、友達と仲よくする。たくさん友達とかかわる中で社会性が芽生えていければと考えます。

会長 ありがとうございました。

今、これは小学校のことを中心にやっていますが、小学生は6歳から11歳、ものすご

い能力発達差がありますから、今、委員の皆さんの話の視点、どの子どもたちをイメージしているかで違ってくるので、それぞれ低学年の段階と中学年の段階、高学年の段階。この段階ではこう育ってほしい、この段階ではこう育ってほしいという段階における子どもの育ってほしいイメージは細かく言えばあると思うんです。その視点をずっと考えた話をされてこられた委員さんもいらっしゃいましたけれども、そういう点もあわせて、ずっと見通しを持って、こうなってほしいという願いがある。学校にぜひ、子どものために教育してほしいなという願いが伝わるような話も続けていただければありがたいと思います。

今、学校のことを話していただきましたけれども、他の委員の方々も学校のほうについてももしありましたらおっしゃってください。自分の小学生時代やら中学生時代の小さいときのことをイメージして、こんな学校がいいなとか、どんな学校が良い姿だなというイメージがありましたら、言っていただければありがたいと思います。これから国際化時代で世の中がどんどん変わってきて、予測がつかない時代に入ってくる時の、これから求める学校像ということも含めて、こんな学校になったらいいなというのがありましたら、どうぞおっしゃってください。

それぞれの委員がおっしゃったことで、課題からいくとこういう問題はこうじゃないですか、一緒に絡めても構いません。この次、整理していきますけれども、今のことをほかの方に質問されても結構です。

何人かの方々から社会性というのがすごく大事という意見がありました。今、コミュニケーションがなくて、携帯電話、テレビだけの生活をしている傾向は増えると思うんです。もっとコミュニケーションを豊かにしたり、社会性を身につけたほうがいいと多くの方がおっしゃっていましたが、その点についてどうですか。例を挙げていきたいと思うのですが、どうぞ。

〇〇委員 その質問とずれるかもしれないのですが、最近の子はゲームとか携帯とかで会話をしたりとか、一緒に遊んでいるのに会話もなくゲームをすとかということが結構見受けられるのですが、学校の中での話じゃないかもしれないのですが、学校の校庭が夕方とか放課後に使える時間は限られてしまうので、そうすると遊びたくても遊べない子どもとか結構集まっちゃって、公園などに体を動かさずにゲームをやったりというところを結構見たりすると寂しいなと思うんです。私が小さい頃は体を動かして疲れ果てるまで遊んで帰ってきて、もうご飯を食べながら寝ちゃうぐらいの体力を使ってきたと思うのですが、今の子はそういうところでも体力が落ちているのかなとか思うし、あとそれとはまた違うのですが、学校に望むことということで、学力とかはすごく気になるんです。その学校のそのクラスで1番であっても、違う学校の子と比べたらあなたは全然低いというレベルは、小学校の今の状態だとわからなかったりするのですが、そういうのも例えばクラスが2つあれば競争するのかなとか、人数が多いほうが、あの子に勝ちたいということになるのかなとは思いますが、何か言い方がまとめられないのですけれども。

会長 具体的に話をしていただいたほうが、これが良いとか悪いとか決まってくると思うので、このように話を具体的お願いします。委員の皆さんも今までの人生を回想されて、これ

からの未来を予測しながら考えられて話すのは、住民の気持ちも考えながら話をしていた
だくことになると思うので。今のような話はいいですね。〇〇委員、ございませんか。

〇〇委員 私たちはPTAなのでサポートする側ですけども、縦割りが見えてすごくいいなと
思っていてよく見えています。上級生が下級生をフォローしていく、中学校でも小学校でも今、
さっきも広場にいても子どもたちが同年代でもなかなか集まらないのに、縦になると下校
時刻がまちまちになってしまって、高学年になったら中学に行っている子も現れ始めるし、
とにかくばらばらなんです。だから、学校の中での縦割りがとても良いなと思っています。
地域のほうも実は同じ状態が言えるような気がしています。親同士のかかわりが薄くなっ
てきていますから、お母さん同士の横のつながりではお話をしますが、縦では少ない
ので、そういうこともあるといいなと思っています。

会長 ほかにいかがでしょうか。〇〇委員、どうぞ。

〇〇委員 ちょっとお二人に聞きたいのですが、クラス替えがないということをどのようにと
らえているかというところ。1年生から6年生までクラス替えがない状態で過ごすという
ことが、保護者の方から考えてどうとらえているのか、うれしいと思っているのか、どう
思っていらっしゃるのかをお尋ねしたい。

〇〇委員 私は2パターンになっていて、うちは2人の子どもがいるのですが、本当に全く
状況が2つに分かれているんです。というのは上の子は今、中学2年生ですけども、本
当に引っ込み思案で、例えば自分の友達が5人いたとしても「入れて」といけないタイプ
なんです。けど、下の子はすごく天真爛漫で、5人いて1人だけその中に友達がいた
としたら、「入れて」といけるタイプの子なんです。だから、上の子は本当に嫌なことを
されてもノーと言えないし、体はすごく大きいのですが、気が小さくてやられっぱなし
というタイプの子なので、その子を見ていると単学級は一たんつまずくと、その子のイメ
ージ、位置づけ、あいつはやっても大丈夫みたいなのがそのまま6年間いってしまうので、
やはり上になればなるほど先生の陰に隠れてということも出てくるし、言うこともすごく
残酷になってきたりする。結局、そのままの状態でもちろん東愛宕
小から来た子と多摩第三小から来た子が合わさるんですけど、結局元々同じ小学校から行
った子がそういう当たり方をするので、何となくその雰囲気そのままになってしまうとい
う。

だから、中学に入って、1年生のときに3クラスだったのですが、今回2年生に
上がるときに転校した子が何人かいて、1クラス減ってしまったのですが、クラ
ス替えも確かにあるのですが、確率的に小学校から行った子に当たることもち
ろんあるので、そうなる萎縮のままずっと行っているというのが現状で、他の小学校
から来た子たちもみんな同じような当たり方をしている、本当に殴られたり蹴られたり
みたいな、あざだらけ。でも、中学生の男の子の体なんて私もまじまじと見ませんし、
学校の担任の先生から電話がかかってきて初めて知ったということがあります。

片や、娘のほうは全然、今、小学校2年生ですけども、帰ってきたら宿題をばつとや

って、「遊んでくるね」と毎日うちにいないぐらいで、友達もありがたいことにすごく大勢いて、今日はこの子がだめだったらこの子みたいなそういう要領のよさもある。そのままいってもきっと大丈夫であろうとは思っているのですが、でも、そこは1回つまずいたらそのまままたいくだらうなという意味では、固定されてしまうというのはきついかなどは思っています。なので中学に入って人数が増えた分、何かあっても逃げ場ができるというか、そういうのはあるのかなど。ただ、その子の性格もあるんだらうなどは思っているのですが、中学校2年生の男の子はいつも私のそばにいて、下の子はいつもいないという、気持ち悪い感じになっています。

〇〇委員 正直言って、最初、東愛宕小学校に入ったときに、1クラスと聞いたときに、えっと思ったんです。でも、一番近い学校だししようがないと思って、入ってやってみなきゃというのがあったので、そのまま通わせたんですけど、やはり極端ですよ。うまくいくクラスは本当にクラスで仲が良くて、そのまま6年間いくので、もう卒業したくないというぐらい、逆にみんなでこのままだいたいねというぐらい仲の良いクラスもあります。だけど、うまくいかないクラスになると、いじめまでいかなくてもそういうこととかがあると、つまずいちゃった子は逃げ場がないというのが現状としてあると思います。ただ、東愛宕小の場合は中学校で2つに分かれるので、そういう面ではあっちにいじめっ子がいるからこっちに行こうとか、そういう逃げ場は多少あると思います。

〇〇委員 皆さん、多分、知りたかったのではないかと。私はすごく知りたかったのでよかったです。

会長 今のはクラス数の問題でしたが、例えば、たまたまクラスの人数が10人のクラスの場合と少し増えて30人から35人ぐらいになった場合はどうですか。これは1クラスの子どもの人数が少ない。なかなか2クラスになり切れないという場合もあるんです。先ほど事務局が言われた40人制度ですから、あと1人増えないと2クラスにならないという、38人という場合もあります。その場合と10人ぐらいの1クラスの場合、どっちが多いのですか。

〇〇委員 私の場合は上の子も下の子もわりと人数が多い学年だったんです。お兄ちゃんときは1クラスながらも25人ぐらいだったですし、下の子も今、20数人いるので、わあ少ないというほどの体験を正直したことがないんですよ。なので、お母さんたちの顔ぶれも多いですし、保護者会にも半分以上のお母さんは必ず来ているので、自分たちのこともいろいろ話せるという意味では十何人というのを体験したことがないので、どうなんですかね。ただ今、今年の1年生のクラスが15人ですが、この前保護者会の様子を見ていたらとても少なかったんで、それはそれでちょっと寂しいかなど。1年生で入ったばかりで不安なこともいっぱいあるでしょうし、そういう中で情報交換ができないというのはすごく不安があるだらうなというのを感じていたりしますけど、十何人ですよ。でも、少ないから何か問題とか、多いからいいねとか、あまりそういう差は今見てもないような気がします。

〇〇委員　私が初めて教員になったとき、伊豆七島の利島というところを経験しているのですが、そこはもう本当に少人数でした。3年間私は1人の担任です。一番多いときが学年で7、8人。そういう経験を4年ほどしたのですが、その中では仲が良く、けんかも全くないです。あいつに負けないようにしようとかという気持ちはあまり見られなかったという気がします。頑張るんです、良さもいっぱいあるんです。教員の目も届くし、そういう意味で力をつけさせてやったかな。自分自身はまだ若くて新採で力がなかったかもしれないけれども、本当に力をつけさせてやったかなと思うと、ちょっとどうかなという気が今思い出したんです。もう1つは自分の経験で、私は小学校時代、2クラスの田舎なんです。2クラスあったのですが、6年間クラス替えがなかったんです。どうしてかなと、生年月日で分けるんです。今、考えるとどうしてクラス替えしてくれなかったのか。ただ、さっきの島の学校と同じように、クラス替えもないから全然緊張感もない、ほとんどけんかもしない、切磋琢磨したかどうか。それが今の僕の姿ですからどうなのかわかりません。そんなところにいた経験もあって、子どもたちには何かいろいろなことをやりとりしながらできるといいのかなという気がします。

〇〇委員　私は小学校が東落合小学校なんですけれども、統合して大きいほうの学校だったんです。小さいほうの学校が、昔、南落合小学校と言いまして、多分、少ない学年は12人とかだったと思うんです。南落合小は全学年が単学級になっていましたから、統合を待ち望んでいたのですけれども、統合後、初めて運動会を見たときの感動がさめないとおっしゃるんです。子どもが広い校庭にぽつんとやっていたところから、私たちが相手校として来たら、向こうの倍以上いるわけです。それが統合して運動会らしくなったと言って、子どもたちが駆けっこしても何をしても、涙がとまらないぐらい感動したというお母さんもいらっしやったりして。そのお母さんがおっしゃっていたのが、それは一人だけではなくて何人もおっしゃったのですが、さっきもちらっと出ましたけど、何にでも順位がついてしまうとおっしゃるんです。学力、かけっこの速さ、ジャンプにしても、野球のうまさにしても何にでも順位がついてしまって、それを子どもたちはあまり変えようとしなくて、あいつにはかなわないとか、あいつよりはおれがうまいというパターンが決まりきっちゃうとおっしゃるんです。

それからあと、さっきのいじめに絡んで、きれいに半々だとすると、男女で12人の学級は6人ずつという感じになってしまうわけです。この6人の中でさっきの話のように一回省かれちゃったらどうしようもないと。お母さんが働いていなくて、たしか学童に入れなくてもいいような家庭もあったんですけど、でも、周りが学童に入っていたら、今の携帯電話の所有率じゃないのですけれども、仲間外れになっちゃうんです。だから、無理してもどこかに職を見つけて、学童に入れないとだめなんだというのを当時、もう10年前、そういう話を聞きました。

会長　大変ですね。

〇〇委員　今の話は現代でも同じです。私のゼミ生で、本人が単学級の学校出身者だったものです

から、自分がたまたま教育実習で行った学校が母校だったのですが、やはり単学級で、本人はそれを卒業研究で考えてみたい。今度は自分は教師としていったわけですから考えてみたわけです。そこで一番気づかれたのが、今、〇〇委員がおっしゃったこと。つまり、人数が少ないクラスは、あらゆることに全て順番がついてしまって、そのままで子どもたち同士がそれを図って、無理もしない、背伸びもしない。つまり、役割を変えないんです。

一番イメージしやすいのを委員の方々に思い浮かべていただきたいのですが、例えばドラえもんの中で、ジャイアンとのび太とスネ夫はずっとあの関係でいくんです。ところが、人数が多くなってくると少し遊びを変える、仲間を変える、友達も移り変わるということで、子どもたちは違う役割を学んでいくんです。ある集団の中では、僕はスネ夫かもしれない。でも、実は違うグループになったときに、自分はジャイアンになったりすることがあるんです。そういうことを学んでいくのが実は大きな学級の1つのメリットになることは、実は私たちは意外と地味でわかりにくいんです。

それがうちの学生が卒業研究の中でずっと見て行って、自分が先生として、今度は子どもたちの様子を見ていくと本当にそうだと。本当だったらもっとできる子なのに、「何で頑張らないの?」「いや、僕はこのクラスでこのぐらいの、あの子には負けるから」「そんなことはないよ、もう君は6年にもなったんだからもう大丈夫でしょう」と言ったら、「うーん、それは微妙」とか。子どもたちは子どもたちなりに自分たちの社会の中での位置関係をつくっているんです。多分、それが先ほど委員の方がおっしゃっていた社会性という部分を身につけたいというのはそこだと思うんです。それを考えると、やはりどの委員の方もそこはきつとなるほどと思っていただけると思うのですが、ある程度の入れかわるような条件というのはつくっておいてあげたいなとは思っています。

会長 ありがとうございます。〇〇委員は何かそういう経験はございませんか。

〇〇委員 私は多摩第三小学校だったのですけれども、その当時の東西愛宕小はすごく人数が多い学年だったんです。多摩第三小だけ本当にぽつんとした、それこそ田舎の学校というぐらい、何でこんなに人数が違うんだろうというぐらい少なかったんです。ただ、2年に1回はクラス替えもありましたし、子どもたちが少ないから仲よくなれるというのもありました。少ないから他の保護者が自分の子どもじゃない子どもまでみんなわかっているというのもある、それはすごくよかったというのもありました。ただ、そのまま中学に行ったときに、わっ、人数の違いはこんなに大きいんだなといろいろな意味で思いました。部活に入ったときにも、大勢たくさんいるのですけれども、固まりができるんです。どこの学校出身で固まりができていくというのが、私自身はすごくそれを実感しました。当時、私のときは、私学に進む方は少なかったのですが、ほとんど東愛宕中に進んだのですけれども、ほとんど進んだのに、中で多摩第三小はこんなに小さいまとまりになっちゃうのという、すごくそれを実感しました。

会長 ありがとうございます。そういうことから考えたときに、地域の方々の役割は大きいのですが、〇〇委員、どうですか。地域の方々の役割というのは大きく、地域のまとまりは非常に大切さがある中で、地域の問題が出てきているのですけれども、どうしたらいいん

ですかね。何か良い考えはございませんか。

〇〇委員　私たち地域としては精一杯学校を応援していますし、私は東愛宕小学校の地区委員会のエリアですが、正直に申し上げますと、10年近く前に活動の仕方を変えたんです。といいますのは、それまでの地区委員会はもっと外側から見てたのですが、〇〇委員はご存じのとおり、10日に一遍学校に行くと「久しぶりじゃん」って、副校長先生に言われます。一週間に一遍ぐらい顔を出す。それは子どもが減ると、同時にPTAの数も減っていき、どうしても足りない部分がいっぱい出てくるので、ある会長から〇〇さん、地区委員会からたくさん応援くださいと言われたものですから、そうか、今までとはもうちょっと違って少しPTAに近い活動の仕方です。

ですから、その場合の学校というのは、学校の授業がどうのこうのではありません。地域といいますと老人会とかとの連携は全部私がパイプ役になって、全部伝えていますので、それこそご挨拶状、ご招待状を配付するのは、はい、メッセージャーおばちゃんと言いながらお手紙くださいとか全部配ったりするのもあって、こまめに学校に顔を出すようにしています。学校やPTAに対して、応援が少し行き過ぎているかもしれないけど、できる範囲で精一杯という形で。そういう意味でいえば、ほかの地区委員会よりは学校に密着した地区委員会活動をしているかなと思っています。

ですから、例えば、学校行事の応援というのを予算化していますので、変な話で学校行事への協力という予算を持っている地区委員会も少ないのではないかと。ささやかなことなんです。ただ、私どもの地域は多摩ニュータウンとして、竜ヶ峰小は多摩市ができる少し前にできたので、多摩市としては最初のエリアなんです。ですから、いつも言うのですけれども、この東愛宕小学校は、三十何年前に30代の親御さんたちが子どもの手を引いて一斉に引っ越してきたんです。そして、学校中心にまちづくりをしたんです。今でも忘れないのですが、私はそのときまだいなかった。多分、五、六年後に引っ越してきて、多摩市に入って最初の地域の活動で得た経験というのが、実は地域の運動会の女性の騎馬戦だったんです。それで私は体が小さくないから馬になる。なぜか、下の手をひっかかれたんです。それは多摩市で初体験だったんです。どうやってひっかいたのかわからない、だれかが。ということは皆さんの話で、えっ、今の地域、30代じゃなきゃ女性の騎馬戦やれますか、地域の皆さんを集めて騎馬戦やったのよと言うと、みんながえっと言う。そのぐらい若いお父さん、お母さん方がみんなでまちづくりをした学校なんです。

ですから、地域との連携はすごく強いんです。ただ、引っ越しがすごく多くて、私が現役のPTAの時代でも、こんなに転校の手続きをする学校にいるのは初めてだと当時の教頭先生が言っていたのですけれども、そのときの伝統が残って、20、30代の方たちが地域で、その方たちが単純に例えば60歳になっていたらしゃるのが応援団なんです。

ですから、その人たちがいつでも学校のほうも出て行って、手をつなぐよと言っていたので、そのパイプ役を私がさせていただく。

それは先ほど言いました地域コミュニティ、東愛宕小学校みたいなところでも、微妙に自治会ごとのコミュニティのカラーの差があるんですね。ですから、上手に入らないと

うまくいかないところがあって、こっちの老人会にこう言って、こっちの老人会にこう言ってということは、私がやらせていただいています。そういう意味では先ほど言ったみたいに隣のコミュニティは大変なので、あんなに小さくても微妙な差があって、現場というのは結構大変なんですね。ですけれども、そんな意味でちょっと先生方に何かお願い、昔遊びやりたいよというのを全部アレンジするのですけれども、そのアレンジがこっちの老人会のもの言い方、こっちの老人会のもの言い方を変えたりとかしながら上手に人数をそろえたりとかというのは、私のできる範囲でやっていく。学校が直接やれたら本当にすばらしい応援がもらえるかもしれないけど、とりあえずは人数が少ないから、私を信じていただけますかと、私たちの地区のカラーでやらせていただいています。

ですから、地域の応援、なるべく体験を子どもたちにさせたいなというのを先ほど言ったみたいに学校でできることの範囲は決まっていますので、地域でできることはいろいろな体験、いろいろな声かけというのをみんな外向けにさせていただいているんです。ですから、小さくなってきたのもずっと見ていますし、小規模、私は個人的には20名を切ったクラスとしては、子どもの人間関係、20人以上いないとクラスと言わないのではないかと思っていますので、小規模の問題でクラス替えだけじゃなくて、うまくいったときは非常に良いけど、少しうまくいなくなったら、サポートするクラスは隣にいないんです。それはすごく大変だと。

ピアティーチャー、すごくいろいろ入れていただいていますけど、ピアティーチャーはあくまでもピアティーチャーなんですよね。ですから、そういう意味でいえば、あまりにも小さいクラスで20名切った単学級は非常に問題だなと。ですから、地域が幾ら精いっぱい応援しても、その学校の活動の中では、決して100%、120%の活動が望めないマイナス要素もいっぱいある。ただ、逆に小規模の良さみたいなものもいっぱいあるので、どの程度小規模でやるかとなると、やっぱり2クラスは欲しいなとずっと……。大規模校から小さくなる、我が校を考えますと850名いた学校が220名になったのですから、それを全部体験できましたので。でも、大規模は大規模で問題がないわけではないんです。

それからもう1つ、今、〇〇委員は実は息子の同期生ですから、子どもがたくさん行った学校。たくさん子どもがいて、私は東愛宕小学校を卒業させて中学に期待したんです。東愛宕小学校のお友達でないお友達が中学に入ったらできるかなと期待したら、中学校レベルだとだめですね。みんな小学校を背負っちゃって、それほど広がらなかったです。ですから、それは小規模であろうが大規模であろうがあまり変わらない。やはり中学生の社会性はその程度、失礼だけど、その程度なんだな。そのくせ隣の中学校の文化とこっちの中学校の文化はものすごく違う。

どういうことかというたとえばスカートの丈、靴下の長さとか、それが例えば東愛宕小学校は2つの中学に分かれていきますので、和田中の文化と東愛宕中の文化はこんなに違うのという、違うんです、隣なのに。それは今、学校統合とかの問題ではなくて、人数が多かろうが少なかろうが、小学校の肩書背負って中学校に行って、なかなか中学校で直らないというのは大勢いようが、少なかろうが同じような問題ですけれども、それとは別にある程度の規模を持った学校であるほうが、いろいろな意味でプラスが多いのかなと思っています。地域にできることはそんなに多くありません。せいぜいその程度

で、例えば安全とか、それから、授業の中でなるべくふだんできない体験をさせてあげようとかという工夫しかできませんので。やはりメインになっているのはお母さんたちの情熱で、私が長く続けているのはその時々のお母さんたちの一生懸命子どものほうを向いて、私たちの学校を良くしようと思っている、本当に悪条件の中で精いっぱいやっているお母さんたちがいるので、もう少し応援してあげようかなと思ってやらせていただいているんです。どのくらいプラスになっているかわかりませんが、今朝も精いっぱいラジオ体操なんかね。

ラジオ体操も私はやっていますけれども、実際にやるのはお母さん方で、火曜日、病気で入院していると聞いたお母さんが来ていたのでびっくりして聞きましたら、今日の担当の人が初めてでよくわからないといけないからと来てくれて、引き継ぎをちゃんとしてくれたんです。そういうお母さんたちが皆さん、子どもが見ているというので、私たちも地域とつなげる、みんなお母さんが頑張っているんだから、昔の先輩よろしくねと言えるんですよ。ちょっと話があちこちいってずれたかもしれませんが。

会長 ありがとうございました。

学校はそれぞれ専門家の先生が計画的に教育目標をつくって、子どもたちを確かに育ててくださっています。その効果が高まるかどうかは地域やおうちの方々の協力体制がとれるかにかかわってくるということがわかります。これは当然、統合等を考えるときにはかかわりがあると思います。最後になりますが、〇〇委員さん、先ほどおっしゃられたように学校教育と家庭教育と社会教育と、それぞれ教育というのは分けていかなければいけないと思います。そのとおりですけれども、〇〇委員が日頃、世間でいろいろな様子などを見まして、これからの子どもに望むこと、こういう子どもに育ててほしいなど、日頃思っているようなことがあったら一言言っていただきたいと思います。

〇〇委員 私は子どもが社会の中で生きていく力という意味では、学校教育もそうですけれども、親の教育も地域の教育もそうでしょうが、養ってほしいなと思うのですけれども、その中では判断力と創造力を養ってほしいとは思いますが。そういうときに考えるのは、判断力とか創造力。判断力のもとになるのは価値観だと思うのですけれども、そういう意味では、いろいろな人と接触をして、いろいろな価値観を、逆にいうと自分が養った、ないしは培われた価値観と違う価値観もいろいろ社会の中にはあると思うのですけれども、そういうのといろいろ接することによって、また反対の部分とかも出てくるし、自分の価値観もまたいろいろな意味で培っていけるのかなと思って、そういう意味では、確かにおっしゃるようにいろいろな人と接触する機会が多いチャンスが学校教育もそうですが、家庭教育の中でもつくればいいのかなど。

会長 どうもありがとうございます。

〇〇委員さん、どうぞ。

〇〇委員 さっきからずっとお聞きしていると、ある程度の人数がいたほうが良いというのは、今日の結論ではないですか。

〇〇委員 先ほど〇〇委員も非常に上手な言い方をしていただいたのですけれども、今、実際に学校に子どもを送っていらっしゃる保護者の方からすると、今ある学校が、例えば今の話でいくと人数が少ないからとか、こういう特徴があるとか。それはあくまで否定しているとかだめだと言っているわけではないんです。本当に皆さんおっしゃるように少ないクラス、少ない集団には少ない集団なりの良いところもある。多いクラスは多いクラスで良いところもあるし、逆に悪いところもあるんです。

ただ、今、〇〇委員もおっしゃっていただいたのですけれども、あえて小さいサイズの人たち、大きいサイズの人たちということを選べるのであるならば、小さいサイズの人たちという集団をつくって保っておく必要があるかどうかという問題だと思うんです。大きくできるのだったら大きくして、それによって大は小を兼ねるではありませんけれども、いろいろな人と接して、いろいろな価値観の人と接触する、そういうチャンスを広げてあげることであったりとか、様々な社会性を育てていくとか、そういったところを保っていくためには、今あえて小ささをとどめていくことよりも、広く大きくできるのだったら、大きくできることを選ぶということも考えられるという話であって、あえて今、小さいことがだめだよとか、今、小さいことはよくないんだと言っているだけではなく、大きくできるのだったら、大きくすることも考えたほうがいいのかという話なわけです。

会長 その他、ほかに何かありましたらどうぞ。

今、ずっと話を出していただいて、最終的に子どもがどう育ってくれるか、幸せに育ってくれるかということに行き着くのだと思います。安心できる学校、そういう姿をいろいろ話をしていただいて、課題にかかわったこともかなり話されたと思います。今日の段階のものをまた整理していただいて、この次、この課題とどう関係があるか検討して、ここで統合についての方向をどうすればいいのかということをも具体的に進めていきたいと思っています。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

会長 この下のほうに書いてある多摩第二小の問題については読んでいただいて、とりあえず表の上の話を進めていくようにしたいと思います。

それでは、今日の審議のほうは終わりにさせていただきます、次回続きを行います。よろしいでしょうか。

それでは、次回開催日時は21年8月10日の午後2時からでよろしいですね。

次回のことをお願いします。

事務局 今、会長のほうからおっしゃっていただきましたが、次回の開催につきましては、来月10日月曜日午後2時から、場所はこの場所をお願いしたいと思います。

会長 ありがとうございます。

次回は、まとめていただきますけれども、大体聞いた範囲で、この課題と絡めて考えをある程度まとめてきていただけるといいかと思います。よろしくお願いします。

では、これで審議会を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。